深山のくさばな育ての親塾

平成28年　第36号掲載

草花（山野草）を盆栽仕立てにした鉢が、塾長（小林学長）の家の裏に数百ほどあり、そのほとんどが、30年～40年育てられたものという。貴重な山野草を次世代に引き継ぐことを目的とし、大事に育てられたそれらを教材に、今年度初めての「育ての親塾」が5月21日（土）に1回目の講座が10名の塾生を集め開校された。何事も周到な準備を怠らない塾長から「育ての親塾」運用要項と詳細な山野草の名称、花期等の記載された資料をいただき、今年4回の講義が開催された。

第1回は、これからの運営方法の確認と鉢物の植え替えの仕方、第2回は自分が育ての親になる鉢の選択とその植わった山野草の名前の学習であったが、半分以上が初めて聞く名前。第3回は、山野草の株分けと分けた株を新しい鉢に植える土の配合を教わる。最終回は、冬越しの準備、手入れ方法を学び、各々選択した鉢を持ち帰った。

私は8鉢もいただいたが、果たして「育ての親」としての責任を全うできるか、甚だ不安で、早速「山野草のすべて」を購入。晩節の生活に新しい楽しみをいただいた塾長に感謝し、来年、顔を上げていただいた鉢の様子を、報告できるようにしたいと思っている。

老夫婦花かず殖やす木槿垣

（高田　繁）

学校林「小鳥の村」の遊歩道の整備作業と愛鳥祭

平成28年　第35号掲載

5月3日藤の沢小学校の学校林「小鳥の村」の遊歩道の整備作業をしました。鎌で笹を刈る作業です。最初は張り切って始めたのですが、だんだんやっているうちに腰が痛くなってきたのです。もうギブアップだなと思っていた矢先に、グループの方がピカピカに研いだ剪定ばさみを貸してくださったのです。はさみでの作業は腰にひびかず作業を終えることができほっとしました。

6日はいよいよ藤の沢小学校第58回愛鳥祭が児童166名と先生方、大勢の地域の方々やPTAと私たち10名の参加で行われました。プログラムに基づきバードカントリー委員長の進行で、それぞれ学級毎に前に出て自分たちの選んだ鳥の紹介をし、大きさ、鳴き声など詳しく声をそろえて説明していました。

校長先生のお話の後、森林遊びサポートセンター小林会長から「小鳥の村」の「儀作杉」のお話がありました。昭和42年、東京在住の佐藤儀作さん、（藤の沢小学校第5回卒業生）がふるさとの街も子どたちも、この杉の木のように、まっすぐ大きく成長してください、という気持ちを込め、杉の苗木2千本を贈ってくださったそうです。町内会やPTAの方々、先生方は、佐藤儀作さんのふるさとや母校を愛する気持ちに沿い、子どもたちの幸せを願い、小鳥の楽園をつくることを目的としスギ苗の育成をしました。しかし、気候が合わずご苦労も多かったそうです。現在学校周辺や小鳥の村に植えられた杉は立派に育ち、子どもたちや小鳥たちの健やかな成長を見守っています。と会長のお話でした。

そのセレモニー中には小鳥たちのさえづりが時々聞こえてきました。また周りにはサクラ、キタコブシ、エンレイソウ、エゾノリュウキンカなどが咲き、セレモニーに彩りを添えていました。素晴らしい愛鳥祭に出席し感慨深い一日となりました。

（藤川　徳子）

苗代苺に寄せて（第30号）

一人暮らしになった98歳の父の家へ、自転車で、週に1、2回通っていた時のことです。20分ほどかかる道をその日の気分で変えて、昔通っていた高校のグランドの脇を通った時、鮮やかなピンク色の小さな花が目に止まりました。自転車を止め、よく見るとそれは、ナワシロイチゴでした。植えられたものか、それとも鳥が食べて種を落としたものが生えたのでしょうか。

ナワシロイチゴは苗代苺と書き、6月の苗代作りの頃に赤い実が熟し出すことからついた名とのことです。私が見た時の花は7月初め、実は8月に入ってから赤く熟していました。北海道では少し成長が遅いようです。もう少し沢山実がなっていたら、ジャムを作って見たかったです。真赤な甘酸っぱいジャムができたことでしょう。今は入院している父に一口食べさせてあげたい思いです。

エンジュダイラ森づくりに参加して

平成28年 第35号掲載

トドマツ群の除伐作業を今春も積極的なアクションを目指す仲間たちと早朝から和カンジキを着用して「ワッショイ！」と汗を流し、早春のまだ雪深い地で熱き！地味な努力で最高なり。当日、新聞社の取材があり、ともに除伐体験でした。新聞社の担当者のコメントが、「この体験は山登りとは異なって清々しさがありクセになりそうです！」と強調していました。4月20日号で新聞社発行の情報誌にこの行事が大きく報じられてグッド・ウエルカム～（担当の方は若き女性で次回は夏のボランティアに参加したいとも申していました。）※ボランティア～地味な努力の積み重ねなり。まだまだ今年の行事は続く…。

（桧山　賢一）

見事に開花！！

平成29年　第37号掲載

「育ての親塾」一期生として、昨年秋に譲り受けた8鉢の草花すべてが、冬眠から目覚めて順調に育っております。その中でも、枯れたと諦めていたヤマシャクヤクが元気に芽を出したときの感動は忘れられません。また鉢から直植えしたセイヨウシャクナゲは見事に開花し、庭の女王の座を奪ってしまった状態です。その他エリモシャクナゲも大きく葉を広げており、これからが楽しみです。ひと冬を越してすべての草花が順調に育って先ずはひと安心するとともに、これからも小林塾長の教えを念頭に置きながら丹精して育てていきたいと思っています。

（吉本　史郎）

星

人を想い　人の心を　尚思う　今明けにけり　百八つの鐘
手稲山　明けたる朝の　一つ星　健やかなれや　あなたも君も
星澄みて　近くの山の　凛として　雪降るときの　覚悟を想ふ
星を見て　希望を高く　持ちし日の　若きときあり　なつかしきかな
友に文　書くタベの　星澄みて　月かたむけり　百松沢の山

（多田　貞志）

平成23年～平成25年　第26号～第30号掲載

春の香りの豊かなイチゴ（31号）

雪解けも進み、降り注ぐ陽射しも暖かくなってきた3月、お花屋さんで真白い籠に植えられたイチゴが目に入り、買って帰りました。食用のパック入りのイチゴに比べると、形は歪で小さいのですが、可愛らしく、香りが部屋中に漂い、幸せな気持ちにしてくれました。

イチゴは、19世紀の中頃にオランダから長崎経由で日本に入り、栽培されるようになったには、明治時代になってからだそうです。

イチゴには、ビタミンCが多く、成人が一日に必要とする摂取量を4～5粒で摂ることができ、また、カルシュウムも多く、高血圧予防の効果やポリフェノールの一種のアントシアニンも含み、美肌効果もあるそうです。イチゴの表面のツブツブは全部が種で、種が表面にある過日は少ないようです。

花言葉は「尊敬と愛、幸福な家庭」だそうです。春の香り豊かなイチゴを美味しく頂き美しく、幸せな家庭にと。